

ふじだな



工事を前に咲いた贈りもの

大阪市では、今年度から市内すべての小学校の体育館へのエアコン設置工事が進められています。本校でも来週6月15日から工事が始まり、8月から使用できる予定です。

近年は夏の暑さが厳しさを増し、学校生活の中でも熱中症への対策が欠かせなくなっています。体育館にエアコンが設置されることで、子どもたちはこれまで以上に安全な環境の中で学習や運動に取り組むことができるようになります。また、学校の体育館は、災害発生時には地域の避難所としての役割も担っています。エアコンの整備は、子どもたちだけでなく、地域の皆様の安心・安全にもつながる取り組みです。

その一方で、工事に伴い、体育館入口付近にある樹木や植栽を撤去しなければならなくなりました。室外機を設置するためのスペースを確保する必要があります。その場所には、大きなイチョウの木やスダチの木をはじめ、多くの植物が育っています。毎日子どもたちが行き交う場所ですが、その存在をあらためて意識する機会はそれほど多くないかもしれません。しかし、それらの木々は、今の子どもたちが入学する前からこの場所に根を張り、この学校に通う多くの子どもたちを見守り続けてきました。



そんな中、ある教職員から「植え込みの中にオレンジ色の花が咲いていますよ」と教えてもらいました。見に行ってみると、普段は緑の葉ばかりが目に入る植物に、小さなオレンジ色の花がいくつも咲いていました。長く本校に勤務している教職員に尋ねても、「こんな花を見たのは初めて」ということでした。

調べてみると、その花は「観音竹（かんのんちく）」の花ではないかということが分かりました。もしそうであれば、何十年に一度しか咲かないと言われるほど珍しい花です。普段は緑の葉だけが目に入る観音竹ですが、その中心から伸びた花茎に、小さなオレンジ色の花がいくつも集まって咲いている様子は、静かでありながらも確かな存在感がありました。

工事によってこの場所の植物が姿を消そうとしている今、その花が咲いたことに、不思議な巡り合わせを感じずにはいられませんでした。もちろん、植物に言葉はありません。しかし、その花を見ていると、「長い間ありがとう」「最後に私たちのことを見てください」と語りかけているような気がしてなりません。

新しい設備が整うことで、学校は子どもたちにとってより安全で安心な場所になっていきます。その一方で、長年にわたって学校の歴史を見守ってきた木々や植物が、その役目を終えようとしています。何十年に1度かもしれない観音竹の花との出会いは、私たちに学校の自然の豊かさや、長い年月の重みを改めて気付かせてくれました。この花が咲いたことを1つの縁として、長い間学校を支えてくれた木々や植物への感謝の気持ちを大切にしたいと思います。



【春の遠足（4年生：深北緑地）】5月15日（金）

子どもたちは朝からわくわくした様子で出発し、電車乗り継いで目的地へ向かいました。駅や車内では大きな声を出さず、周りの人のことを考えて行動する姿が見られました。深北緑地では、とりで広場やロケット広場、きょうりゅう広場などで友達と仲よく遊びました。大型遊具で体を動かしたり、芝生広場で元気いっぱい走り回ったりしながら、楽しい時間を過ごしました。昼食では、友達と一緒に食べたお弁当の時間も笑顔があふれていました。友達と協力しながら活動し、ルールやマナーを守って過ごした1日となりました。自然豊かな公園の中でたくさん遊び、友達とのつながりを深めることができた、思い出いっぱいの遠足となりました。



【春の遠足（6年生：明日香村）】5月29日（金）

雨天延期となったため、待ちに待った遠足となりました。環状線と近鉄線乗り継ぎ、奈良県の明日香村へ遠足に出かけました。通勤・通学の人で混み合う車内でも、周りの人への気配りを忘れず、静かに行動する姿に最高学年らしい成長が感じられました。飛鳥駅に到着した後は、グループごとにオリエンテーリングを行いました。地図を片手に相談しながら、亀石や天智・持統天皇陵、橘寺などをめぐり、明日香村の歴史や豊かな自然にふれました。班で声をかけ合いながら歩き、協力して目的地を目指す姿が見られました。ゴールとなった石舞台古墳周辺でお弁当を食べた後、石舞台古墳を見学しました。子どもたちは巨大な石の迫力に驚きながら、「どうやって作ったのだろう」と興味深そうに見学していました。帰りも長い道のりでしたが、友達と励まし合いながら最後まで元気に活動することができました。歴史や自然に親しむとともに、仲間との絆を深めることができた、思い出に残る遠足となりました。

